

コミュニティ南越谷 第71号

http://minamikoshigaya.sakura.ne.jp

平成26年(2014年)4月1日発行 南越谷地区コミュニティ推進協議会 編集:広報・文化部 TEL 048-990-1200

第32回彩の国21世紀郷土かるた大会

〔越谷市大会〕
2月11日(火・祝)、越谷市立総合体育館にて各地区より勝ち抜いた代表4チーム、個人4名が参加して熱戦が繰り広げられました。

団体戦では、杉の子チームが準優勝、赤山町三丁目チームが3位となりました。

〔埼玉県大会〕
3月9日(日)、本庄市総合体育館「シルクドーム」にて開催。県内各地の予選会を勝ち抜いた600名の選手が団体戦と個人戦に分かれて優勝を目指して熱戦を繰り広げました。

南越谷地区の選手は、今回もこの大会に備えて、毎週土日南越谷地区センターにおいて練習に励みました。

越谷市の代表は、団体で(杉の子・赤山町三丁目チームを含む)4チーム、個人で4名が出場。

杉の子チームは決勝トーナメント迄進みましたが、惜しくも敗退しました。選手と関係者・保護者の皆さんお疲れ様でした。



県大会風景



赤山町三丁目チーム

杉の子チーム

子ども発表会

南越谷地区センター 3月2日(日)

公民館主催事業の発表会が目的ホールで開催されました。インフルエンザの影響で参加者が例年より少ないながらも「パレット子育て広場」では体操と合奏、「わくわくお話広場」では絵本の読み聞かせ、「チャリディング」と「子ども太鼓んどんど」では1年間の練習の成果を大勢の保護者を前に伸び伸びと発表していました。



第19回南越谷地区総合防災訓練

震災は忘れないようにやってくる

午前9時、大規模地震が発生し、市内全域で大被害を受けたとの想定で訓練が始まりました。

参加者は自治会毎に集合し、避難訓練や避難場所の確認を行い、総合防災訓練場所の南越谷小学校に集合し、避難人数、被害状況などを報告しました。参加人数は1,003名と発表されました。

白井俊市コミ協会長、高橋茂自治会連合会長に続き、来賓の高橋努越谷市長からは「昨年、思いもよらない竜巻・洪水被害がありました。防災訓練は繰り返し行い身に付けることが大切です」との挨拶があり、訓練に入りました。

訓練では、応急救護・救急搬送訓練・AEDの使い方、消火器訓練、バケツリレー訓練を熱心に行いました。体験では、起震車による震度体験、煙中体験、はしご車搭乗、車椅子体験があり、震度体験には長蛇の列ができていました。

展示では「救助工作車」、ライフラインとして「水」「ガス」、「耐震住宅」「ボランティアセンター」「防災備蓄倉庫」がありました。訓練後の講評で越谷市消防本部蒲生分署署長からは、講評に

南越谷小学校校庭

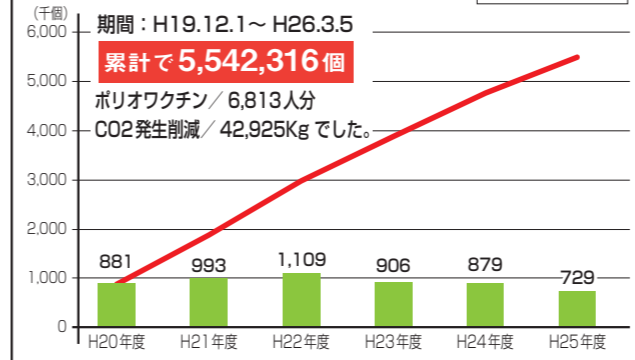
3月9日(日)

続き「災害はいつやってくるかわかりません。日頃から初期対応の心構え、防災備品の備えが必要ですよ」と話されました。参加者は炊出し班が作った「すいとん」を試食し、非常食の「乾パン」と「アルファ米ごはん」をもらい散会しました。

T.N&S.K



ボトルキャップ回収報告

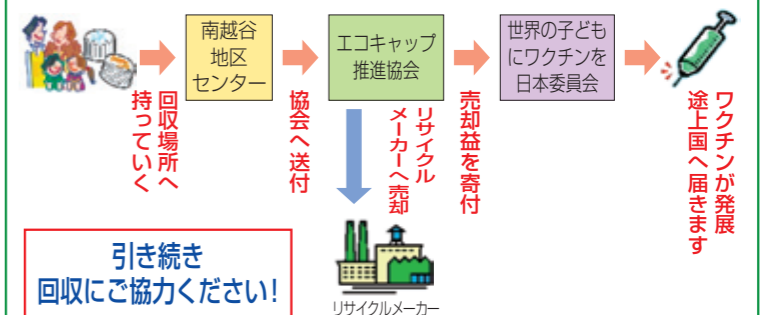


エコキャップ運動

【回収するもの】このマークの付いたもの
【回収しないもの】
・金属製
・清涼飲料水が入っていた以外のキャップ



回収したキャップの流れ



お知らせ
●南越谷地区コミュニティ推進協議会総会
日時: 5月15日(木) 午後7時 南越谷地区センター

編集後記
地区コミ協設立20年の節目を経過して、これからも皆様へ地区の情報をタイムリーにお伝えしてまいります。 S・H

花いっぱい運動

環境・衛生部会担当 3月2日(日)

第3回の花いっぱい運動を行いました。今回は、花植え活動ではなく、各自治会へ花苗を配布して、地区内の景観美化にご協力いただきました。

あいにくの雨模様でしたが、足元の悪い中にもかかわらず、朝9時から希望された自治会の方々に集まってもらい、色とりどりのパンジーやビオラの花苗を持ち帰り、植えられました。

配布終了後には、残った花を環境・衛生部会員で、地区センター玄関前の花壇に植えました。とても華やかに賑わい、暖かい春が待ち遠しくなります。



Y.F

第14回 まちづくりシンポジウム

越谷市中央市民会館 1月25日(土)

主催 越谷市コミュニティ推進協議会・越谷市

今年度のテーマは「地域ではじまるまちづくり事業の成果発表」を3部構成で行われました。第1部「コミュニティリーダー養成講座」では、25年度各地区コミ協の課題解決のためコンサルタントを利用し、各地区コミ協会員を対象により効果的・実践的な講座に延99名が受講し、21名の方が市コミ協より「まちづくりマスター」に認定され、その代表4名が講座の内容を説明し、今後どう活かしていくかを発表しました。

◎北越谷地区コミュニティ推進協議会より「まちづくりの課題解決サポート事業報告」では、地域が抱える人材不足・事業のマンネリ化・意識改革の必要性などに対してモデルケースとしてコンサルタントを利用し、問題解決の為の方策を探り議論した内容の発表がありました。

第2部では、3地区（大相模地区・蒲生地区・桜井地区）のコミ協から「地域ではじまる協働のまちづくり」について事例発表が行われました。

第3部では南越谷地区コミ協白井会長がコーディネーターとなり事例発表3地区に加え、増林・大袋・出羽・大沢・北越谷・



越ヶ谷・南越谷地区をパネラーとして、「地区」コミ協の事業の中で地域の団体と連携し、協働で行っている事業」についての情報交換がありました。

T・N

第6回 協働フェスタ

越谷市中央市民会館 1月25日(土)

主催 協働フェスタ実行委員会

「あなたが主役のまちづくり」をテーマに市民活動団体、地域活動団体や、行政、企業の77団体が日頃の活動を展示・発表、情報交換を行いました。このフェスタは、幼児から高齢者まで大勢の市民が参加できる幅広い活動で、2世代3世代の来場者が多く興味をもって展示品や、パネルを見て説明を聞き、各団体の広報紙を持ち帰っていました。

また体験コーナーも色々あ



大型展示パネル



南越谷地区コミ協展示ブース

り、加えて楽しいスタンブラリーで各階を回りアンケートを書くことでフェスタに参加し、景品などをもらって楽しんでいました。会館前広場では、模擬店・太鼓演奏・バザーがありました。協働のまちづくりは「あなたが主役」です。中核都市越谷をみんなで築きましょう！

R・N

平成25年度 まちづくり研修会

南越谷地区センター 2月9日(日)

主催 南越谷地区コミュニティ推進協議会

記録的な大雪が降った翌日、コミ協、コミ協構成団体、南越谷小学校、富士中学校などから101名が参加して、まちづくり研修会が開催されました。

白井俊市会長の挨拶の後、気象庁熊谷地方気象台の永田俊光防災業務係長から講演がありました。冒頭、阪神淡路大震災や昨年、越谷を襲った竜巻の映像が流され、災害の脅威を改めて思い知らされました。

今回は、「地域と学校が連携した防災の取り組みについて」というテーマで、その内容と現状を中心に話されました。

災害時に中心となるべき大人は、日中は働きに出ている場合が多く、その代わりに中学生、高校生が地域の災害対応に大きな役割を担ってもらう、という取り組みが埼玉県内でも進められています。

弟や妹がいる小学校に行ったり小学生を守りながら帰宅したり、地域の高齢者の家を訪問し、安全確認を行ったりする、という行動です。さらに、学校・地域が連携した実践的な訓練は、生徒たちに共助意識を徐々に作り出し、子どもからの発信で家庭防災・地域防災へつながるこ



とも期待できます。日頃の訓練によって、災害が発生する前に「条件反射的に対応できる行動」を身につけることが必要と学んだ研修会でした。

S・K

南越谷地区成人式

富士中学校体育館 1月12日(日)

南越谷地区の成人式が天候に恵まれ、午前11時から富士中学校体育館にて対象者263名、参加者188名で開催されました。

受付では艶やかな晴れ着姿や新しいスーツに身を包み、久しぶりに会う友人と楽しく語り合う姿が見られました。

来賓や保護者の見守る中、舩谷優衣さんの司会で始まり、舩島孝子実行委員長、高橋努越谷市長、市議会議長代理榎村紀元市議会議員より励ましと期待を込めたお祝いの言葉が贈られました。

次いで高橋市長から成人者代



第2回 南越谷小学校地域懇談会

3月5日(水)

第2回の地域懇談会が午後3時から約1時間半、南校舎2階研修室で行われ、PTA及び南越谷小学校に関係する地区の各団体から30名が参加されました。

学校側から配布された資料を基に南越谷小学校の現状について、990名の保護者から寄せられた子どもに関するアンケートと学校に関するアンケート結果などの説明がありました。それについて、いくつかの課題が見えてきていることも添えられました。

その後、日常の挨拶、通学路の標識、登下校時の様子、交通事故、小学校保険、防災訓練、地域行事などについて情報交換がありました。

今後も、子どもたちの健やかな成長を地域とともに目指し、毎年継続してこの懇談会が開かれるとのことです。



S・H

が増えている。

自転車事故の原因は、①一時停止しない②急に進路変更③右側走行④斜め右折などがある。交差点および、進路変更では必ず右・左の安全確認を行い夜間走行には、反射材・ライトを付けることが必要であり、自転車通行可の歩道を走行する時は歩行者優先を守れば事故は防げる。

歩行中の事故の原因は、①車の直前・直後の横断②横断歩道以外の横断③車道斜めの横断④赤信号無視などがある。道路横断時は右・左の確認を行い、信号機・横断歩道のある所を利用し、さらに青信号点滅時は渡らない事を守れば事故は防げる。

自転車に乗っての合言葉は、「もしかして、止まる、見る、待つ、確かめる」です。地域の会合や行事の機会を活用し自転車交通安全教室を行うなど、地域の高齢者の交通安全意識を高揚しましょう。

(数値は日本交通安全協会、HPより)

T・N



高齢者の交通安全

高齢者の交通事故は減らない

平成25年中の交通事故による死亡者は全国で4,373名で13年連続して減少しているが、高齢者(65歳以上)の死亡は2,303名(全体で約53%)で減少していない。ここ数年高齢者の自転車、歩行中での死亡



S・H



表の松崎優太さんに記念品が贈呈され、来賓紹介、祝電披露と続き、問川真菜さんから誓いのことが述べられました。式終了後の茶話会では、恩師を囲む輪や友達の間があちこちで和やかな歓談が続きました。